



齋藤信治 議員
(開白会)

問 子ども医療費無償化の
効果検証を

29年1月より子ども医療費無償化の範囲を18歳まで拡大した。窓口払いも無いため、多くの子どもたちが医療サービスを楽しむようになった。しかし、無償でも受診できない子どもがいる。効果を検証し、必要としている子どもが受診できる対策が必要では。

答 一時預かりや早期受診の
周知に努める

子ども医療費無償化の効果は、利用状況の増加から早期受診により、重症化予防が図られていると推察している。仕事が忙しく子どもをすぐに病院に連れて行けない家庭に対しては、一時預かりや夜7時まで診察をしている医療機関の周知を積極的に行っていく。

問 □から見える貧困

子どもたちの歯科治療費は無償なのに、10本以上虫歯があるなどの『口腔崩壊』の子がいる。保護者が仕事を休めなかったり、虐待(ネグレクト)などが背景にあると考えられる。無償化だけでは治療できない子どもたちがいる。一人一人に寄り添った対応を。

答 保護者への啓発と
歯科保健指導を続ける

児童生徒に『口腔崩壊』といわれる状態が発生していることは見過ごすことができない。保護者へ虫歯治療の必要性を継続的に説明していくとともに、児童生徒自らが虫歯治療に対して積極的に行動できるよう歯科保健指導を今まで以上に充実させていく。



黒須大一郎 議員
(隼人)

問 巨費投じる新土地利用は
公平公正に

これまでの区画整理事業の繰入額は各いくらで、期間は。また、白岡中周辺土地利用協議会とその役員会は、公的機関なのか。

市が農業ゾーンなどとしている地に、企業が熱い目を向けている。土地利用基本計画はニーズとずれ、市の可能性を削いではいないか。

答 地権者組織と信頼関係を
築いていく

市が施行した完了済の3地区と現在施行中の1地区の前年度末時点までの合計額は、約115億円である。白岡中学校周辺区域土地利用協議会は、市と地権者が一体となって設置した。市では、29年3月に改定した第5次総合振興計画にもとづいて運用していく。

問 地域を盛上げる
センキョ割運動を

身近な地方選挙ほど、近年、投票率の低下が著しい。投票所の改編など考えは。

2012年に、横浜で始まったセンキョ割運動は、全国に広がりを見せている。老若男女を問わず、地域を盛り上げ、選挙を身近に感じるこの運動への取組を。

答 機会を捉え
情報提供していく

投票率の向上を図るため、投票区の改編を含めた投票環境の整備、効果的な啓発活動などを調査研究していく。また、「センキョ割」への取組を市が主体となって実施することは課題が多いが、大きな宣伝効果が期待できることから商工会などに情報提供していく。

